

# 平成 30 年度 病虫害防除技術情報 第 2 号

平成 30 年 5 月 1 日  
大分県農林水産研究指導センター  
農 業 研 究 部

## イネもみ枯細菌病（幼苗腐敗症）の防除対策について

昨年の傾穂期における巡回調査でイネもみ枯細菌病が県内全域で認められました。本病は発病もみや保菌もみによって越冬し、第一次伝染源となります。病原菌は種子伝染し育苗箱内で幼苗腐敗症を起こすので、汚染の可能性が高い籾を除去するために必ず塩水選を実施するとともに、種子消毒も徹底してください。

### 1. 発生の状況

平成 29 年 9 月中旬の巡回調査では県内全域で発病が確認されており、発生圃場率は 31.6 %となっています。平年よりやや多い発生であり、種子への感染が多かったと考えられます。

### 2. 病徴

育苗箱ではイネの地際部が褐変し、新葉は湾曲して出葉し黄白色(図)ないし褐色となります。やがて基部が腐敗し萎ちょうが起り枯死します。坪枯れ状に発生することが多く、苗を引くと容易に抜け、基部は茶褐色帯状に変色します。

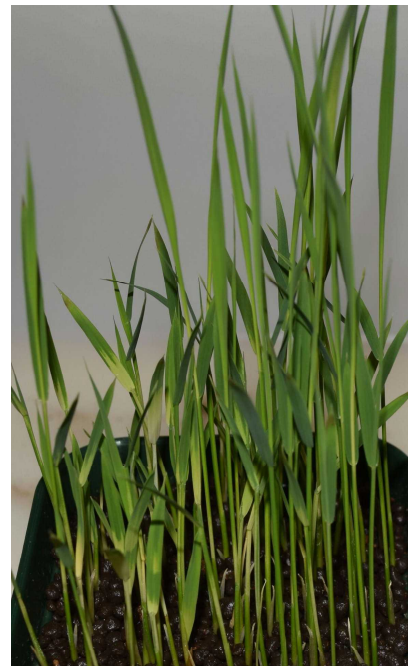


図 苗の白化症状

### 3. 防除上注意すべき事項

- (1) 塩水選を徹底し、良質の種もみを選んでください。
- (2) 種子消毒にはテクリードCフロアブルを使用してください。なお、テクリードCフロアブルとパダンSGとの混用は不可であるため、心枯線虫との同時防除を行う際はスミチオン乳剤を使用してください。
- (3) 過度の高温多湿を避け、透水性の良い培土を用いてください。